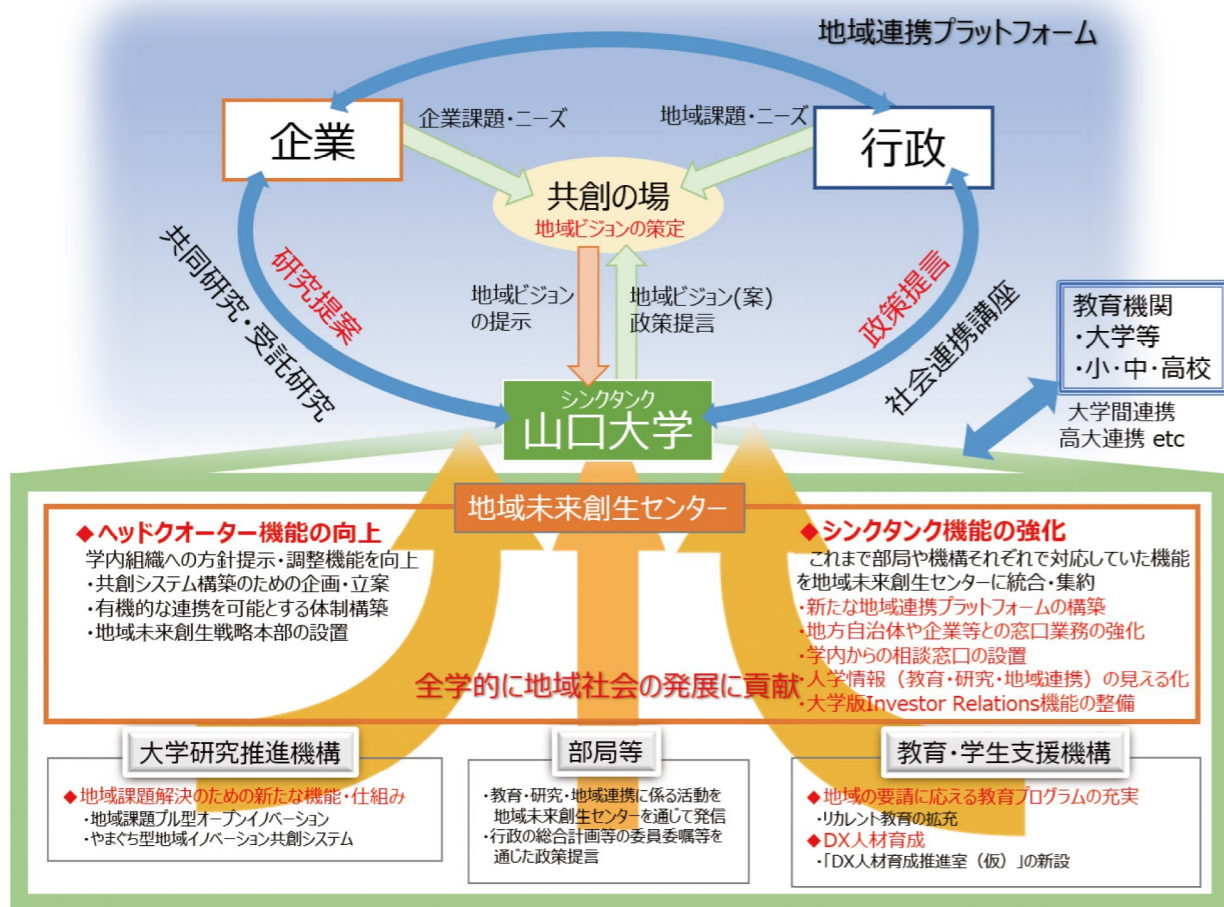


# 地域社会から期待される シンクタンクを目指して ～地域に貢献する山口大学～

## ◆地域未来創生センターの機能強化

山口大学は、令和4年度から令和9年度までの第4期中期目標・中期計画を策定し、その冒頭に、「地域の抱える社会課題を共有し、地域の企業や教育機関、行政機関と協働し、産・学・公連携の知の拠点として、シンクタンク機能を果たし、優秀な人材を輩出し、課題の解決に寄与することにより、地域に頼られ、地域から必要とされる魅力ある大学をめざします。」と掲げています。加えて、新たに策定した「明日の山口大学ビジョン2030」においても同様に、「地域に貢献する山口大学」を最も重要なミッションと位置付けています。

また、近年の我が国の動きとして、平成30年11月に中央教育審議会により「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が策定され、高等教育が目指すべき姿や、多様で柔軟な教育研究体制の必要性、地域における高等教育のグランドデザインが議論される場の創設などが示されました。その後、令和2年10月に文部科学省により「地域連携プラットフォームの構築に関するガイドライン」が策定され、大学が地域社会の課題解決に主体的に取り組むことが期待されています。



これらの状況に的確に対応するため、令和4年4月に、「地域に貢献する山口大学」の中核を担う地域未来創生センターの機能強化を行いました（P17下図）。まず、学内の研究・教育リソースの調整機能を充実する『ヘッドクォーター機能』をセンターに備えることで、地域社会のさまざまな課題に対しより的確に対応できる体制としました。その上で、官学公金が同じ立場で一元的に議論するプラットフォームを支援・運営し、本学の研究リソースや活動成果を地域社会へ提供できるようにするとともに、ステークホルダーに適宜発信するなど『大学の見える化』に取り組みます。

地域連携プラットフォームについては、令和4年11月に山口市を地域とする「やまぐち地域共創プラットフォーム」及

び宇部市を地域とする「うべ・未来共創プラットフォーム」を立ち上げ、本学学長を含む高等教育機関の代表者や、各市市長、商工会議所会頭、地元銀行の代表等で議論を開始したところ。まずは、地域の現状と課題を整理・共有することから始め、少子高齢化や市街地活性化等の課題が示され、魅力あるまちづくりや雇用の創出、高齢者の健康増進を推進すること等について議論が行われています。具体的な取組はこれからですが、取り組みの成果をしっかりと発信していきたいと考えています。また、他の地域においても、連携プラットフォームの構築を提案し、より多くの地域課題の解決に本学が貢献することを目指しています。

## ◆「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に採択

令和4年8月に、文部科学省「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に採択されました。我が国は、今後のDXの発展に伴い、理系だけではDXを支える人材が不足することが想定されています。下図に示すように、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学は、「大学等連携推進法人」を設置し、DXに強い文系人材を育成する「SPARC教育プログラム」を共同で開発することで、「ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-beingに貢献する文系DX人材」を育成します。

本学は、この事業を通じて、これまで培ってきた地方自治体、高等教育機関、経済団体、企業等との連携関係を活用した「大学リーグやまぐち」の協力体制を基盤として、「人間の心理・行動の理解と地域社会に対する分析力を基礎として地域課題の発見と解決ができる文系DX人材」の育成を推進し、DX実践により地域企業の課題を適切に解決できる人材の確保や産業構造の転換にも貢献していく予定です。

**ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成**  
[well-being: 一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ]

Society5.0に向けて 人間中心の視点から地域活性化への大学協働

◆地域課題を適切に捉えてDX実践できる人材を育成  
◆山口県産業の装置型から知識集約型への転換に貢献

